

## <全体分析>

試験時間

90分

解答問題数

4題

### 解答形式

全問論述式

### 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

### 出題の特徴や昨年との変更点

①以外の大問は、いくつかの小問によって構成されている。

大問によって、難易度の差がある。

### その他トピックス

昨年の④のような、問題に対する答えが提示されるタイプの問題が①で出題された。

## <大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
①	複素数と方程式 整数	数Ⅱ 数A	因数定理 整数に関する論証	やや難
②	極限 微分法 積分法	数Ⅲ	関数の数列, 極限で定義された関数 増減, 凹凸, 極値, 変曲点 部分積分	やや易
③	複素数平面	数Ⅲ	絶対値, 偏角	やや難
④	三角比 整数	数Ⅰ 数A	余弦定理 条件を満たす素数	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

設問は段階的に、あるいは誘導性をもって並んでいるため、最終目標を念頭におき、各設問の役割を認識しながら解いていくとよい。試験時間を考えると、問題文を迅速かつ正確に読み取る必要がある。そのためにも、与えられた条件や前の設問をどのように利用するのか、的確に判断することが重要である。日頃の学習を通して、用語、定理、公式を正しく理解しておくとともに、定理・公式については証明まで踏み込んで学習しておくとういだろう。また、証明問題に限らず、高い論証力が求められるため、自身の考えを数式や言葉を用いて端的に表現する練習をしておこう。昨年の④や今年の①のように、問題に対する答えが提示されるタイプの問題は、今後も出題される可能性がある。しかし、過度に恐れることなく日々丁寧に学習し、自身の思考力、判断力、表現力を高めていくことが重要である。